

## 今年（第五期）の

## 「哲学カフェ」は

## 終了しました

### 参加いただいた皆さん

### ありがとうございました

九月二八日の哲学カフェは「差別」という難しいテーマでしたが、活発な話し合いができました。講師を務めていただいた中島勝住さんをはじめ参加いただいたみなさんありがとうございました。

今回の瓦版は、世話人からのメッセージで構成しました。これまでの五年間の反省と今後の展望について書いてみました。拙文ながらお読みいただけたら幸いです。

## 「哲学カフェ」について思うこと

【世話人 永井】

これまで、哲学カフェをやっていて、良かったなと感じられたのは、どんな時かな、と考えてみました。そうすると、そこには、種類の違う、二つのパターン

があることに気がつきました。

特定の人だけが、話すのではなく、いろいろな人が対話にくわり、話がはずんだ時、特に、明らかに多様な考えや意見をもっている人たちの間で十分な対話が行われた時、他の場では、あじわえないような充実感を感じます。こういう経験は、話すテーマが、ある意味で、だれにとつても関心がもちやすく、それぞれが、自分の意見を言いやすい場合、そして、特定の知識や経験の有無が、それほど問題にならない場合に、起こりやすいようです。

各地で行われている哲学カフェの一つのパターンは、こういう方向を大切にされるやりかたで、そこでは、とにかくいろいろな人に来てもらうこと、そして、その場所が、どの人にとつても居心地のよい場になることをめざしているようです。そこでは、そこに来た人から、話したいテーマを出してもらったり、話しやすいテーマにすることを大切にして、議論が深まることにはあまり重きをおいてないように感じます。

それに対して、私自身が充実感を感じるもう一つのパターンは、一つのテーマについて対話することで、明らかに議論が深まり、自分がこれまで理解してきたことは、少し次元のちがう深さでものごとを理解できたと感じる時です。いわゆる「わかった!」と感じる喜びです。ある分野の問題に詳しい方に話題の提供をいただく時も、うまく対話がはずむと、その分野の問題をとおして、新しい視野がひらけることがあります。それが、医学の分野であったり、障害にかかわる分野であったり、歴史の分野であったりしても、同じようなよるこびがあります。ただ、この場合、対話に参加するためには、ある程度の知識が必要であったり、

対話のすじみちについていくことが難しかったり、あるいは、ただの知識を得るだけにおわつてしまう危険もあります。私自身は、単に知識をえたり、会話する喜びにとどまらず、このような新しい広い視野が得られる経験、「Aha!」体験、「わかった!」体験が得られるような対話に、なんとか近づけないかという思いがあります。

とりわけ、社会的な問題など、意見の対立がおきやすい分野で、このような「わかった!」体験が共有できたら、どんなに素晴らしいだろうと思います。社会の中でのそれぞれの人の生きづらさや切実な苦しさを、社会として解決していくためには、社会の成員の間での対話が必要です。それぞれの意見の違いが、どうしようもない利害の対立に基づいていたり、あるいは、政治的な立場の対立となつて現れることも、ある程度、さけられないことです。しかし、少なくとも、その対立を越えて、何らかの橋、とりわけ言葉を通しての橋がかけられない時、社会は分断され、きしみ、場合によっては、立ち往生したり、機能不全に陥ります。今の日本社会は、年齢や階層、学歴、インターネットへのアクセスなどさまざまな要因により、このような分断線が、あちこちでひかれてしまっているように思えます。

人は、どうしても、自分の聞きたい意見を聞くこととしますし、自分のこれまでの考え方に矛盾する情報や意見を拒否しようとする強い習性があると思います。自分自



身をふりかえっても、それをふりはらうのは、本当に難しいと感じます。ただ、そのような自分のかたよりに、どれだけ抗えるか、自分の無知を自覚し、自分のこれまでの視野を相対化して、より広い視野にたてる可能性を信じることが、めざすべき「対話」を成立させる条件だと思えます。

そういう「対話」がどんな時に、成立しうるのか？その可能性を信じながら、試行錯誤をさらに続けたいなと思えます。

## 「哲学カフェ」について思うこと

【世話人 大江】

今の時代、解決困難な問題が目白押しです。大きくは地球温暖化と環境の激変。資源エネルギーの渇渇問題があります。現代の物質文明は、私たちに快適で便利な生活を与えてくれました。しかしそれを支えてきた地球の生存環境が激変しようとしています。

中くらいでは、各国のナショナリズムの台頭と経済的利害の対立が、軍拡競争と戦争の危険性を増大させています。トランプ現象、ブレグジット British exit、さらには宗教と価値観の対立を根源にもつ東・西アジアの戦争の不断の脅威などがあります。

身近な問題では、少子高齢化社会と格差の拡大、刹那主義と人心の荒廃、未来の展望の欠如と若者の保守化等々生きにくい世相を表しています。

大中小の諸問題それぞれが哲学の課題であるものではありません。また「蝸壺」状態の学閥の支配する大学の研究に期待することも無理でしょう。そして無数の利害団体や研究組織の中でさえそれらの問題解決や満足が得られるものでもありません。

しかしながら我々の哲学カフェは、小さな課題から大きな問題まで、多様な問題提起と自由な対話を通じて解決を探ってきました。少なくとも私にとって様々な立場の考えを聞くことによって解決のための多くの糸口が与えられました。

## 「問答・連」の初心に戻る？

【世話人 野崎】

五年前に「哲学カフェ」をはじめてみようと考えたのは、「問答連」では、哲学的な問題を扱うことで、討議（対話）することの意味を、そして小学生段階からの可能性探つていこうということ。同時に「哲学的な討議（対話）」をしていくことはそれほど簡単なことではありません」とその難しさについて、趣意書に書いていました。そうしたことが、この間うまくできたかどうかは懐疑的です。人が人と「話すこと（対話すること）」がいかに大変なのかということを経験的に感じました。しかし、そうした難しさを承知しながら言葉を紡ぐことの大切さも学びました。

これまで参加いただいた多くの皆さんの熱心な議論に後押しされて、つたない企画でもつてここまでやってこられたのだと思ひもあります。

さて、これからの身の振り方ですが、来年の鬼が笑ってくれるのか、そろそろ引き際との引導を渡してくれるのか、今のところよく分かりません。節分のころに鬼に尋ねてみようかな！

ちなみにこれまで取り上げたテーマを列挙して見ました。（ ）内はゲストスピーカー。

【第一期】子どもは考える フランス映画『小さな哲学者』を素材に／ことばとはなにか 西洋思想の批判

から見える世界／あなたと語る その1 障害当事者との哲学対話／こどもが育てる対話 読み物教材をテキストに／こどもにとっての哲学経験 フランス式高等学校の哲学の授業（ウスビ・サコさん）

【第二期】私たちにとつての宗教 今の時代と浄土真宗（大須賀 護さん）／こころとは何か 人間の心は、欲求・感情・言葉の方程式／あなたと語る その2 障害者との語りから他者の存在へ／働くことを疑う 勤労の道徳は奴隷の道徳／ことばとは何か 言語としての手話から考える（高井小織）

【第三期】見える世界見えない世界 「手で見る」ということ（光島貴之さん）／リベラリズムの行き詰まり リベラルは生き残れるのだろうか／今よみがえる「ブツダのことば」 仏教の現代化のために／「子ども」を考える 文化的視点から見た「子ども」（ケントさん）／ファスベンダさん）／お金って何だろう 経済学でないお金の話／医療から見る「死」 「治す医療」から「支える医療」へ（住田剛一さん）

【第四期】子どもの難問から 過去はどこへいつちやったのだろうか？／子どもの難問から 人間は動物の中で特別な？／広場・公園・盛り場 場所と空間から都市の生活史を考える（梅林秀行さん）／子どもの難問から どうすれば人は分かりあえるのだろうか？／心と身体 気功の本質（檜崎勝則さん）

【第五期】いつ大人になったのか こどもと大人の境界／人間には、人間を超えるものが必要？必要でない？／人はどうして言葉を話すようになったのだろうか？／学校唱歌とわたしたち なつかしさとあやうさと（中西光雄さん）／《差別ごころ》からの《自由》を 差別する側から差別を乗り越える（中島勝住さん）